

令和4年度学校と地域との連携に関するアンケート調査結果 (県立高等学校、特別支援学校)

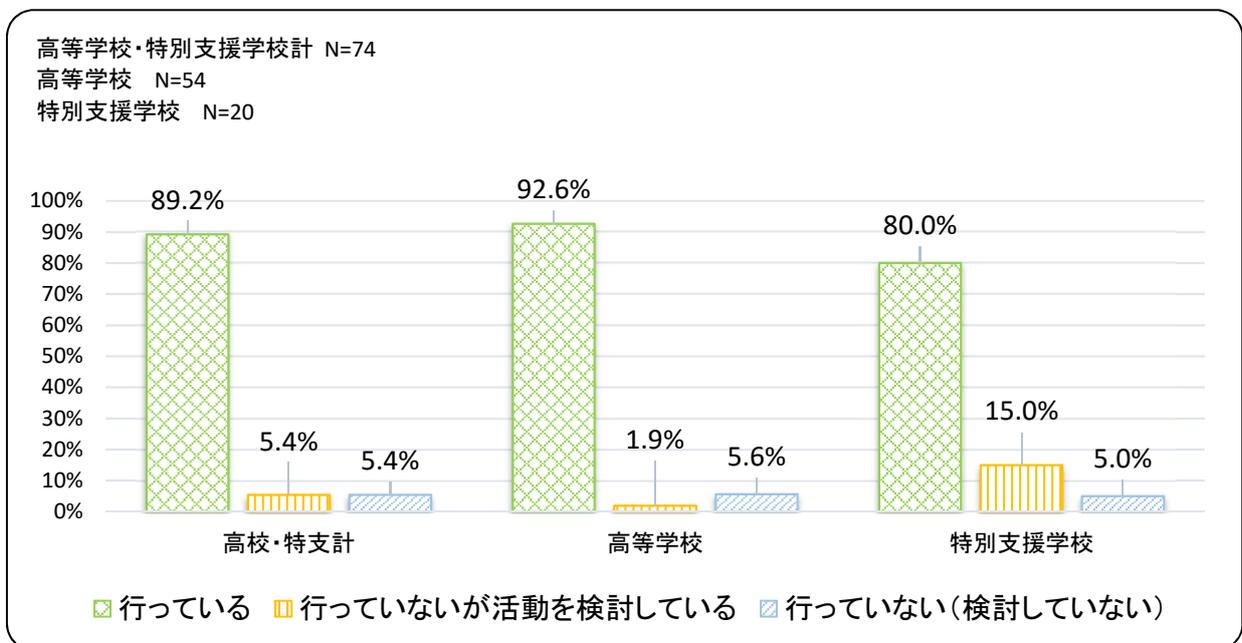
この調査は、県教育委員会が取り組んでいる「学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり」の進捗状況を把握するために、県内の県立高等学校及び特別支援学校を対象に実施したものです。

- ◆回答期間: 令和4年12月21日から令和5年1月31日まで
- ◆回答率: 100%

1 現在、貴校では、地域住民や保護者、地元企業等と連携した活動(以下、地域学校協働活動という。)を行っていますか。

(全校回答)

□地域学校協働活動の実施状況



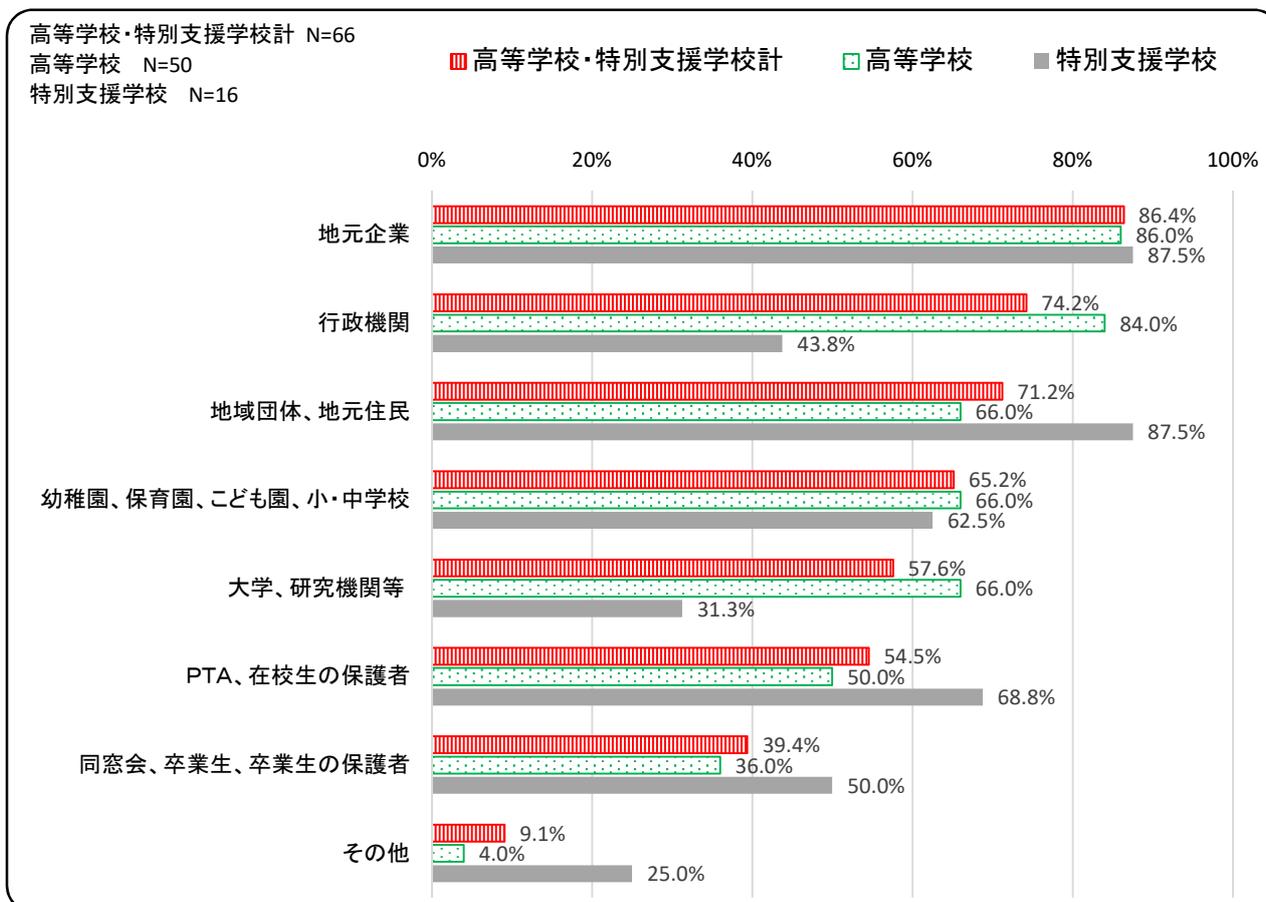
	学校数	行っている		行っていないが活動を検討している		行っていない(検討していない)	
		数	割合	数	割合	数	割合
高等学校	54校	50校	92.6%	1校	1.9%	3校	5.6%
特別支援学校	20校	16校	80.0%	3校	15.0%	1校	5.0%
高校・特支計	74校	66校	89.2%	4校	5.4%	4校	5.4%

2 地域学校協働活動の連携先について、選択してください。

(該当校回答)

□地域学校協働活動の連携先

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

- 高等学校(計2件) : 病院・老人施設・特別支援学校(1件)、
 近隣の特別支援学校(1件)
- 特別支援学校(計4件) : ハローワーク・障害者職業センター(1件)、
 福祉機関・支援団体、医院(1件)、
 療育福祉施設・放課後等デイサービス事業所・就労支援センター(1件)、
 福祉サービス事業所(1件)

	高校・特支計(66校)		高等学校(50校)		特別支援学校(16校)	
幼稚園、保育園、こども園、小・中学校	43	65.2%	33	66.0%	10	62.5%
PTA、在校生の保護者	36	54.5%	25	50.0%	11	68.8%
同窓会、卒業生、卒業生の保護者	26	39.4%	18	36.0%	8	50.0%
地元企業	57	86.4%	43	86.0%	14	87.5%
行政機関	49	74.2%	42	84.0%	7	43.8%
地域団体、地元住民	47	71.2%	33	66.0%	14	87.5%
大学、研究機関等	38	57.6%	33	66.0%	5	31.3%
その他	6	9.1%	2	4.0%	4	25.0%

3 貴校の地域学校協働活動の内容を具体的に記載してください。

(該当校回答)

【高等学校】

学校名	具体的内容
青森	・学習アシスタント(実習・実験・探究学習発表会の審査助言・小中学生への学習支援)、職場訪問、職業講話、出前授業、進路講話、登下校の見守り
青森西	・地域に関する学習活動(地域の歴史学習)、就業体験学習(インターンシップ)、職業ガイダンス、環境整備(花壇整備) ・地域のイベント等ボランティア活動(JR新青森駅、三内丸山遺跡センター、青森市経済部交流推進課等)
青森東	・原別小学校に出向き、授業のサポートを行っている。 ・青森県立保健大学に行き、大学生とともに大学の講義を受けている。
青森北	・地域に関する学習活動(地域活性化、まちづくり、防災、地域の環境問題、伝統文化の伝承等)、出前授業、職業体験(インターンシップ、職場訪問)、進路講話、環境整備(ゴミ拾い等)、学校行事(各種式典、文化祭、運動会等)の補助、地域の行事、イベント、祭り、ボランティア活動等への参画
青森南	・出前授業、本の読み聞かせ、ボランティア活動への参加(県総合社会教育センターと2回)、地域に関する学習活動(「あおもり創造学」)
青森中央	・地域の環境学習、出前授業、進路講話、本の読み聞かせ、地域のボランティア活動、部活動指導補助、挨拶運動 等
浪岡	・職業体験(インターンシップ、企業訪問)、進路講話、学校行事(文化祭)、地域の行事、イベント、ボランティア活動
青森工業	・金魚ねぶた制作教室・運行、工業高校社会科見学(小学校)、インターンシップ(企業・青森大学・八戸工業大学:中止、国土交通省)、課題研究(企業・協同組合等共同調査・研究)、特別非常勤講師による授業(地元企業)、出前授業(地元企業、電気工事組合、電気保安協会、東京電力HD、花壇自動車大学校等)、外部講師資格講習会(ボイラー技師、ITパスポート等)、風力発電体験研修(地元企業)、ETロボコン技術指導(青森大学)、東北テック道場(青森大学、Code for Aomori休止中)、地元建設業と高校生の交流会、ものづくり企業PRイベント(地元企業)、近隣の祭参加(ねぶた運行、ロボット実演等)、青森第二高等養護学校とのものづくり交流会など
青森商業	・商品開発・研究 ・出前授業 ・職業体験(インターンシップ、職業講話) ・高大連携事業
五所川原	・各中学校、特別支援学校との連携会議 ・PTA役員による登校指導・巡回指導等、立佞武多運行への保護者協力 ・立佞武多への同窓生の製作協力 ・地元飲食店等に対する実態調査及びその発表 ・市役所等への取材及び懇談 ・地域ボランティア団体への生徒参加 ・大学からの出前講座
金木	・文化祭において、地域のこども園を招き、園児達の太鼓演奏を披露してもらった。また、本校三味線部とのコラボ演奏も行った。 ・卒業生を講師として招き、「卒業生講話(進路について)」を実施した。 ・地元の商業施設からの依頼で「シャッターアート」を描いた。 ・文化祭の流し踊りの練習の際、地元の方を講師として招いている。また、地元の合唱団等を招いて「ふるさと芸術鑑賞・講演会」を実施した。
木造	・授業(商業科目・商品開発)、総合的な探究の時間、産業社会と人間(インターンシップ) ・高大連携事業(青森中央学院大学、同短期大学) ・全校奉仕活動(地域清掃ボランティア) ・地域伝統行事参加(馬市祭り流し踊り参加、1・2年次生)
木造深浦校舎	・地域に関する学習活動、職業講話、進路講話、ボランティア活動、学校行事

鯉ヶ沢	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(小・中学校との合同流し踊りの実施と保存会による指導等、学校祭におけるOBの協力)に対する協力 ・職業体験(インターンシップ、進路講話) ・地域に関する学習活動(鯉高みらい塾、伝統文化の伝承、高校魅力化推進事業) ・ボランティア活動への参画(白神ブナ植樹、町内清掃活動) ・地域活性化活動への参加(おやき販売、ふるさと納税返礼品製作、鯉ヶ沢町創出プロジェクトへの参加) ・保護者による活動(挨拶運動、豚汁支援、流し踊り着付け)
板柳	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(文化祭)の補助、ボランティア活動への参画
鶴田	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の研究、地域の祭り等への参画
五所川原農林	<ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(園児…毛豆の収穫・豆腐作り・花壇整備、小学生…田植え・稲刈り、高校…GLOBALG.A.P取得支援)、PTA活動(あいさつ運動、環境整備)、ボランティア活動(ちよこっとゴミ拾い、キッズフェスタ2022in五所川原)、GLOBALG.A.P.の公開審査、特別非常勤講師による出前授業(豚肉解体・鉄筋施工、スマホスタンド作り)、フードバンク活動、地域農業経営者の講演会、インターンシップ、環境整備(ブナ植林)
五所川原工業	<ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(高大連携による課題研究発表会) ・学校行事の補助(運動会、文化祭等) ・ボランティア活動等への参画(地域のゴミ拾い)
五所川原工科	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(探究活動) <ul style="list-style-type: none"> 市役所や行政、地元企業から講師を招聘して講義・協議 地元大学教授による講義・協議 ・進路に関する学習活動(企業PRイベント) <ul style="list-style-type: none"> 地元を含む企業について各ブースをローテーションしての職業研究 ・学校行事(運動会、文化祭、地域のゴミ拾い等)
弘前	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化＝弘南電鉄イベントへの参加) ・出前授業・進路講話・開校記念講演、登校時の挨拶運動、弘高ねぶた制作時の巡回
弘前中央	<ul style="list-style-type: none"> ・職業人講話、総合的な探究の時間発表会助言者、登校指導、看護体験、福祉体験、医師体験、大学模擬講義、進路講演会(本校)、卒業した中学校での進路講演会講師
弘前南	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業、学校行事の補助、進路講話、地域に関する学習活動、ボランティア活動
黒石	<ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(看護科の実習・授業)、地域に関する学習活動(防災)、商品開発(情報デザイン科による企業との連携)、出前授業、職業体験、進路講話、ボランティア活動
柏木農業	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等の指導補助(卒業生によるカボチャの栽培管理から流通まで) ・商品開発・研究(清水森ナンバを用いた辣油づくり等) ・職業体験(インターンシップ) ・環境整備(平賀駅前花壇植栽活動) ・登下校の見守り(学校・保護者による列車乗車中のマナー指導) ・部活動指導補助(卒業生等による部活動における技術向上等の指導) ・地域の祭りへの参加(平川ねぶたへの参加)
弘前工業	<ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(OBによる溶接実技指導、地元企業による技能検定指導、ものづくりマイスター派遣制度による指導補助、地元大学生サポーター実習等)、地元企業による出前授業、職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話等)、進路講話、学校行事(文化祭等でのPTA活動)の補助、PTAによる登下校の見守り、部活動指導補助(内容:弓道部、テニス部、新体操部、バレーボール部、バドミントン部、ボクシング部、硬式野球部の外部コーチ)、中学生を対象とした体験入学
弘前実業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化) ・専門教科の技術指導等(特別非常勤講師活用) ・商品開発 ・出前授業 ・就業体験 ・防災講話
十和田西	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習活動(地域活性化・人口減少対策・地元企業魅力体験等) <ul style="list-style-type: none"> (ジャンプチーム:防災活動、観光科:救急救命法等) ・商品開発(オリジナルコラボポテトチップス・十和田セレクトギフト等) ・進路講話(職業人セミナー:十和田子ども食堂実行委員会) <ul style="list-style-type: none"> (十和田面接セミナー:地本企業社長による面接練習) ・地域の行事(奥入瀬溪流ボランティアガイド) ・学習アシスタント(観光表現:保育園児へのダンス指導)

三沢	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間のテーマ設定等への助言(行政機関、大学、高校、研究機関等) ・部活動指導補助(地域住民へのコーチ依頼) ・三沢市長への意見交換(三沢青年会議所主催事業) ・職業講話 ・伝統文化に関する学習活動(菱刺し)
野辺地	<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験(インターンシップ)、防災教育
七戸	<ul style="list-style-type: none"> ・学習アシスタント(授業の外部講師等)、地域に関する学習活動(アーカイブしちのへのロゲイニング運営、七戸町新庁舎建設に係るワークショップ等)、進路講話(キャリアサポート等)、学校行事(行事での写真撮影等)、登下校の見守り(あいさつ運動等)、部活動指導補助(外部コーチ) ほか
百石	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動、出前授業、職業体験、進路講話
六戸	<ul style="list-style-type: none"> ・さつき沼ビオトープ ・六戸町模擬議会
六ヶ所	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中学校に出向いての進路活動発表会 ・学校行事の補助(六耐レースでの炊き出しや六高祭での模擬店の出店) ・卒業生による進路講演会 ・地元ローカルTVとのわがまちCM大賞作品制作 ・地域団体との地域に関する学習活動やインターンシップ ・大学とのオンライン授業や研究機関に出向いてのサイエンスツアー ・六ヶ所高校魅力化に係るワーキンググループ、六ヶ所高校活性化協議会
三本木農業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動、商品開発・研究、出前授業、職業体験、環境整備、学校行事の補助、登下校の見守り
三本木農業恵拓	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動、商品開発・研究、出前授業、職業体験、環境整備、学校行事の補助、登下校の見守り
十和田工業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業による工業高校生への技術指導、青森県ものづくり企業PRイベント、企業見学会(リモート見学も含む)、建築現場見学会、課題研究での地域伝統建築や文化建築の調査研究、卒業生による職業講話、保護者対象進学セミナー、インターンシップ、県工業高校研究成果発表大会、小学生ものづくり体験、中学生体験入学、秋祭り参加(コロナ前)
三沢商業	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科目「課題研究」を通して、地域理解・郷土愛をもたせた地域産業と融合した地域総合学習を展開している。
大湊	<ul style="list-style-type: none"> ・連携している大学の出前講座・講演(総合的な探究の時間、進路対策) ・むつ市のジオパークに関すること ・卒業生による職業人講話 ・地元企業の協力によるインターンシップ、訪問インタビュー、就職志望生徒への面接指導 ・地域のイベント、祭り、ボランティア活動 ・部活動におけるコーチとしての人財活用
大間	<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験 ・進路講話 ・出前授業 ・進路ガイダンス ・本の読み聞かせ ・学校行事補助 ・祭事参加 ・環境整備
むつ工業	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業(中学校へ出向いて、企業等から招いて) ・学校行事(文化祭、球技大会)の補助、環境整備(花壇整備、教具整理) ・協同研究、地域企業等の見学
八戸東	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒による近隣の小学校での学習支援ボランティア ・保護者による登校指導 ・校外体験活動(2年生全員が、八戸市及び近郊の事業所を訪問する)
八戸北	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(校外学習／総探での探究活動) ・出前授業(大学出張講義／統計アナリスト養成講座) ・職業体験(職業人と語る会／医療体験／薬剤師体験) ・進路講話 ・学校行事(文化祭展示／他) ・あいさつ運動 ・ボランティア活動(地域清掃／地域行事補助等) ・メンタルコーチによるメンタルサポート
三戸	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化、商品開発・研究、出前授業、職業体験、環境整備、学校行事、部活動指導補助(コーチ)、地域の行事・イベント・祭り・ボランティア活動等への参画

名久井農業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり、出前授業) ・進路講話 ・環境整備(花壇整備等) ・部活動補助(野球、バスケ) ・地域の行事(祭り全校参加)
八戸水産	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化)出前授業、進学・就職相談会、職業体験(インターンシップ)、地域の行事・ボランティア活動への参画
八戸工業	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業 ・職業体験(職場訪問、職業講話) ・進路講話 ・部活動指導補助(各部活動における指導員、コーチ) ・高大連携事業(八戸工業大学との体験授業等)
八戸商業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学習活動(地域活性化・まちづくり・縄文世界遺産)、郷土芸能文化の伝承(えんぶり)、出前授業(アプリ開発講座)、高大連携(全商会計実務検定「財務会計論」集中講義、開発商品の広告・販売実践、IT業界の職業と今後の動向)、インターンシップ、外部講師による進路講話、分野別進路ガイダンス、面接ガイダンス、外部コーチによる部活動指導補助、ボランティア活動(縄文なべ祭り)、学校行事(各種式典、八商バザー、課題研究発表会)、朝の挨拶運動、生徒会館環境整備
北斗	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(文化祭)の補助 ・インターンシップ等
尾上総合	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事(田んぼアート田植え・稲刈り) ・体験学習(1年職業人インタビュー、2年農業体験、卒年体験学習) ・体験型進路ガイダンス、社会人ライフプラン講話 ・課題研究 ・進路講話
八戸中央	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動(公園の花植、学校周辺のゴミ拾い)、イベント等のボランティア、インターンシップ、産業現場等における実習、企業見学、地域住民との合同防災訓練

【特別支援学校】

学校名	具体的内容
盲学校	・出前授業、進学・就職相談、職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話など)、進路講話、本の読み聞かせ、ボランティア活動等への参画
青森聾	・職業体験、進路講話、ボランティア活動
弘前聾	・部活動指導補助(卓球部)、教科指導(保健体育、造形活動) ・地域資源の紹介(写真の提供)、職業体験、進路講話 ・交流活動(幼保園、福祉施設)職員研修講師、作品展示
青森第一養護	・地域の関する学習活動(防災、郷土芸能・伝統文化の伝承等)、職業体験、職場訪問、進路講話、施設・設備のメンテナンス、学校間交流、居住地校交流、校内清掃、畑整備
青森第二養護	・米作り(田植え、稲刈り、脱穀、収穫祭) ・資源回収(年3回) ・児童館清掃、神社清掃(斧懸神社) ・産業現場等における実習、ジョブカフェ講話、企業見学
青森若葉養護	・出前授業、職業体験(産業現場等における実習、職場訪問)、進路講話、環境整備
青森第一高等養護	・地域に関する学習活動、商品開発・研究、職業体験、地域の行事への参加、作業製品の展示、進路講話
青森第二高等養護	・職業体験(インターンシップ、職場訪問、職業講話) ・進路講話、地域交流、学校行事の補助
弘前第一養護	・出前授業、就職相談、インターンシップ、職場訪問、職業講話、進路講話、地域の行事・イベント・祭り等への参加
弘前第二養護	・職業体験(福祉施設や市役所等と連携した産業現場等における実習、施設等の体験学習) ・出前授業(小学校の通常学級における障害理解教育) ・合同作品展(地元企業、他の特別支援学校と連携して開催)
八戸第一養護	・職業体験
八戸高等支援	・職業体験(産業現場等における実習) ・進路講話(職業センター、卒業生等) ・地域における奉仕活動(花壇整備、ごみひろい、公民館や水族館等公共機関の清掃、さめ保育園での絵本の読み聞かせ) ・出前授業(清掃、接客、パン作り、身だしなみ、主権者教育、安全教育、性に関する講座、消費生活、SNSの利用、地域調べ、南部せんべい作り、八戸水産高校出前授業等) ・部活動指導補助(陸上競技)
黒石養護	・居住地校交流 ・異校種交流(地元小・中学校とのリモート交流会、地域の高校での農作業体験) ・地域に関する学習活動(陶芸体験、農業体験) ・保護者による環境整備 ・産業現場等における実習への協力(地元企業、施設) ・校内実習・作業学習(地元企業からの作業請負) ・模擬会社の設立(黒石市、黒石市教委、黒石商工会議所、黒石市社会福祉協議会との共催) ・学校祭への協力(黒石高等学校)
むつ養護	・小学部 花のまちづくり運動、地元婦人会との交流(昔の遊び、踊り)、四校園スポーツ交流 ・中学部 職場・施設体験、郷土工芸教室、三校交流(海浜清掃)、四校園スポーツ交流 ・高等部 産業現場等における実習、近隣小学校との清掃協働活動、工業高校との交流、地区県立高校野球部エールボール活動、外部講師活用授業(清掃、接客、PC入力、書道、ヒップホップダンス、グラウンド・ゴルフ)、市内4校合同震災から学ぶプロジェクト

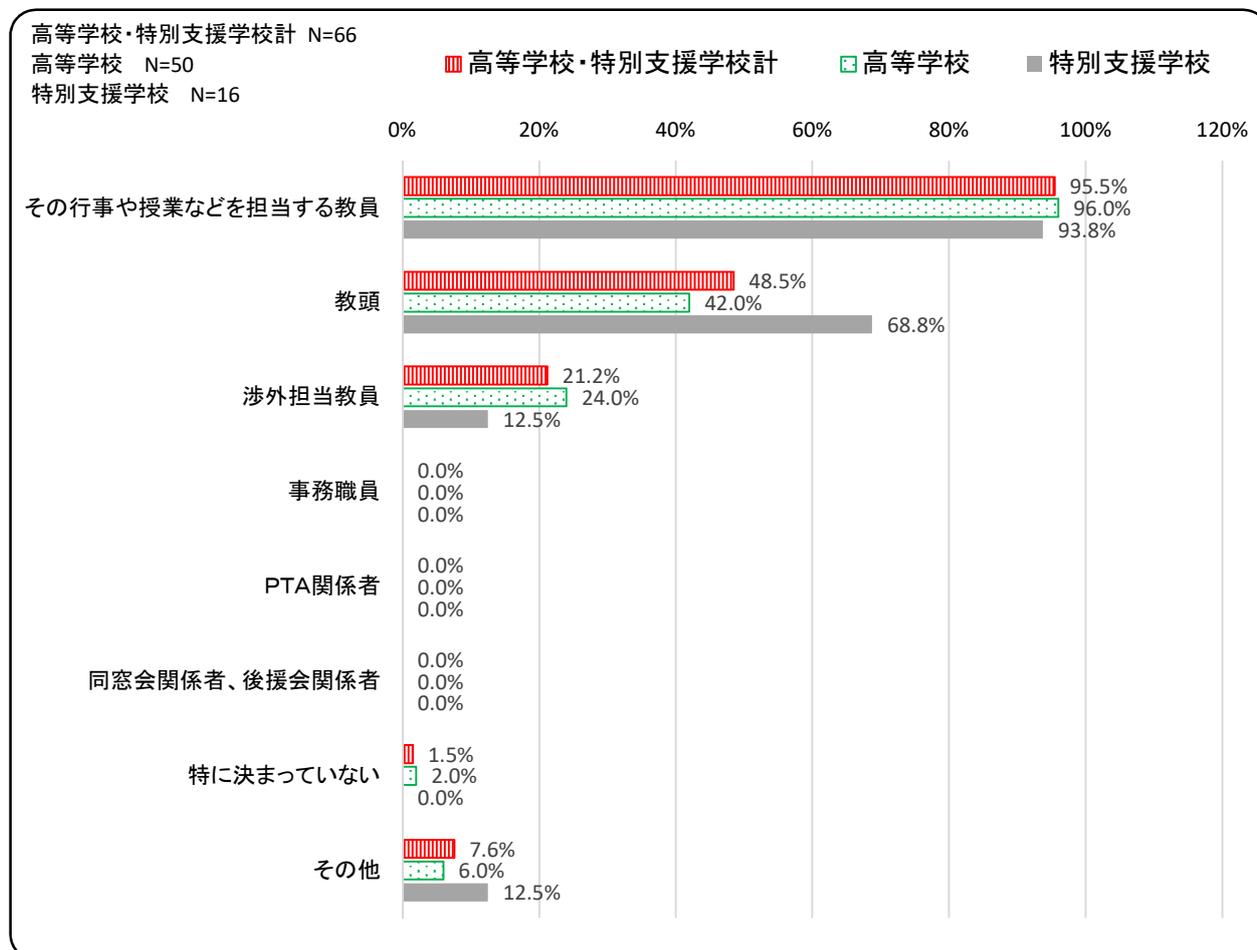
森田養護	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部 作業学習 鶴田高校、つがるロータリークラブ地域資源の活用(空き缶リサイクル) ・保護者(ひまわり応援隊) 遊具消毒支援、各行事のサポート補助、学校花壇整備支援、つがる市立図書館図書貸し出し支援・鱒ヶ沢町協力の防災教室(今年度は実施中止) ・高等部 地域の行事参加(馬市祭り販売活動) ・夏季休業中 高等部 作業学習作品展示(青銀木造支店、みち銀木造支店、森田郵便局、つがる地球村、立佞武多の館) ・地域への学校通信「つながる」配付及び地域の関係機関への掲示(青銀木造支店、みち銀木造支店、森田郵便局 立佞武多の館、つがる地球村、道の駅森田アーストッ、さとちょう森田店、つがる市商工会議所、松の館、森田公民館) ・小学部「道路クリーン作戦」 ・高等部「つがる地球村清掃活動」 ・中学部地域雪かきボランティア
七戸養護	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備、学校行事、出前授業、職業体験、進学・就職相談 ・児童生徒が描いた絵画の展示

4 地域学校協働活動を行う際、連携先と学校のコーディネート(つなぎ役)は主にどなたが担当していますか。

(該当校回答)

□連携先とのコーディネート役

※複数を担当している場合は、多いものから2つ選択



「その他」の記載内容

高等学校(計3件) : 進路指導部教員(2件)、農場長(1件)

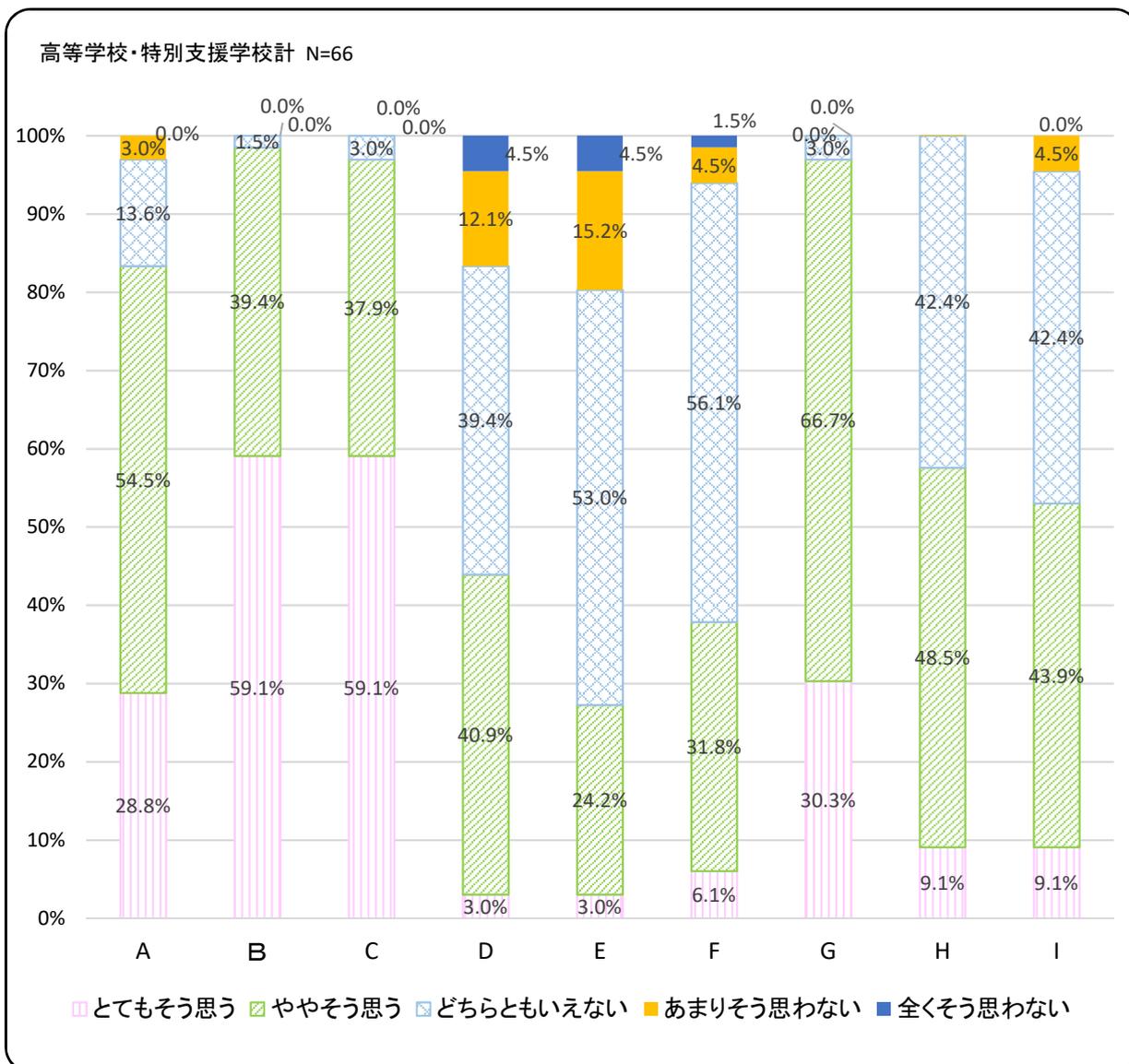
特別支援学校(計2件) : 進路指導主事(1件)、地域交流コーディネーター(1件)

	高校・特支計(66校)		高等学校(50校)		特別支援学校(16校)	
教頭	32	48.5%	21	42.0%	11	68.8%
渉外担当教員	14	21.2%	12	24.0%	2	12.5%
その行事や授業などを担当する教員	63	95.5%	48	96.0%	15	93.8%
事務職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
PTA関係者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
同窓会関係者、後援会関係者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特に決まっていない	1	1.5%	1	2.0%	0	0.0%
その他	5	7.6%	3	6.0%	2	12.5%

5 地域学校協働活動を行うことで、学校として感じている効果についてお答えください。
(該当校回答)

- A 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力の向上につながった。
- B 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、コミュニケーション能力の向上につながった。
- C 児童生徒が地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、地域への理解・関心が深まった。
- D 地域住民が学校を支援することにより、教員が授業や生徒指導等に力を注ぐことができた。
- E 地域住民が学校を支援することにより、生徒指導上の課題の解決につながった。
- F 地域住民の生きがいや自己実現につながった。
- G 地域住民の学校への理解が深まった。
- H 地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった。
- I 地域課題(地域活性化・まちづくり、防災、家庭教育支援、子育て環境整備、地域の環境問題、郷土芸能・伝統文化の伝承、国際化、高齢者の活躍促進、地域の健康増進、教育格差の解消等)の解決方法を地域住民が考えることにつながった。

□ 地域学校協働活動を行うことで、学校として感じている効果



A	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	17校	34.0%	28校	56.0%	4校	8.0%	1校	2.0%	0校	0.0%
	特支	16校	2校	12.5%	8校	50.0%	5校	31.3%	1校	6.3%	0校	0.0%
	全体	66校	19校	28.8%	36校	54.5%	9校	13.6%	2校	3.0%	0校	0.0%

B	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	33校	66.0%	17校	34.0%	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
	特支	16校	6校	37.5%	9校	56.3%	1校	6.3%	0校	0.0%	0校	0.0%
	全体	66校	39校	59.1%	26校	39.4%	1校	1.5%	0校	0.0%	0校	0.0%

C	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	31校	62.0%	19校	38.0%	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
	特支	16校	8校	50.0%	6校	37.5%	2校	12.5%	0校	0.0%	0校	0.0%
	全体	66校	39校	59.1%	25校	37.9%	2校	3.0%	0校	0.0%	0校	0.0%

D	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	2校	4.0%	23校	46.0%	17校	34.0%	6校	12.0%	2校	4.0%
	特支	16校	0校	0.0%	4校	25.0%	9校	56.3%	2校	12.5%	1校	6.3%
	全体	66校	2校	3.0%	27校	40.9%	26校	39.4%	8校	12.1%	3校	4.5%

E	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	2校	4.0%	13校	26.0%	27校	54.0%	6校	12.0%	2校	4.0%
	特支	16校	0校	0.0%	3校	18.8%	8校	50.0%	4校	25.0%	1校	6.3%
	全体	66校	2校	3.0%	16校	24.2%	35校	53.0%	10校	15.2%	3校	4.5%

F	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	3校	6.0%	17校	34.0%	28校	56.0%	2校	4.0%	0校	0.0%
	特支	16校	1校	6.3%	4校	25.0%	9校	56.3%	1校	6.3%	1校	6.3%
	全体	66校	4校	6.1%	21校	31.8%	37校	56.1%	3校	4.5%	1校	1.5%

G	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	15校	30.0%	33校	66.0%	2校	4.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
	特支	16校	5校	31.3%	11校	68.8%	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
	全体	66校	20校	30.3%	44校	66.7%	2校	3.0%	0校	0.0%	0校	0.0%

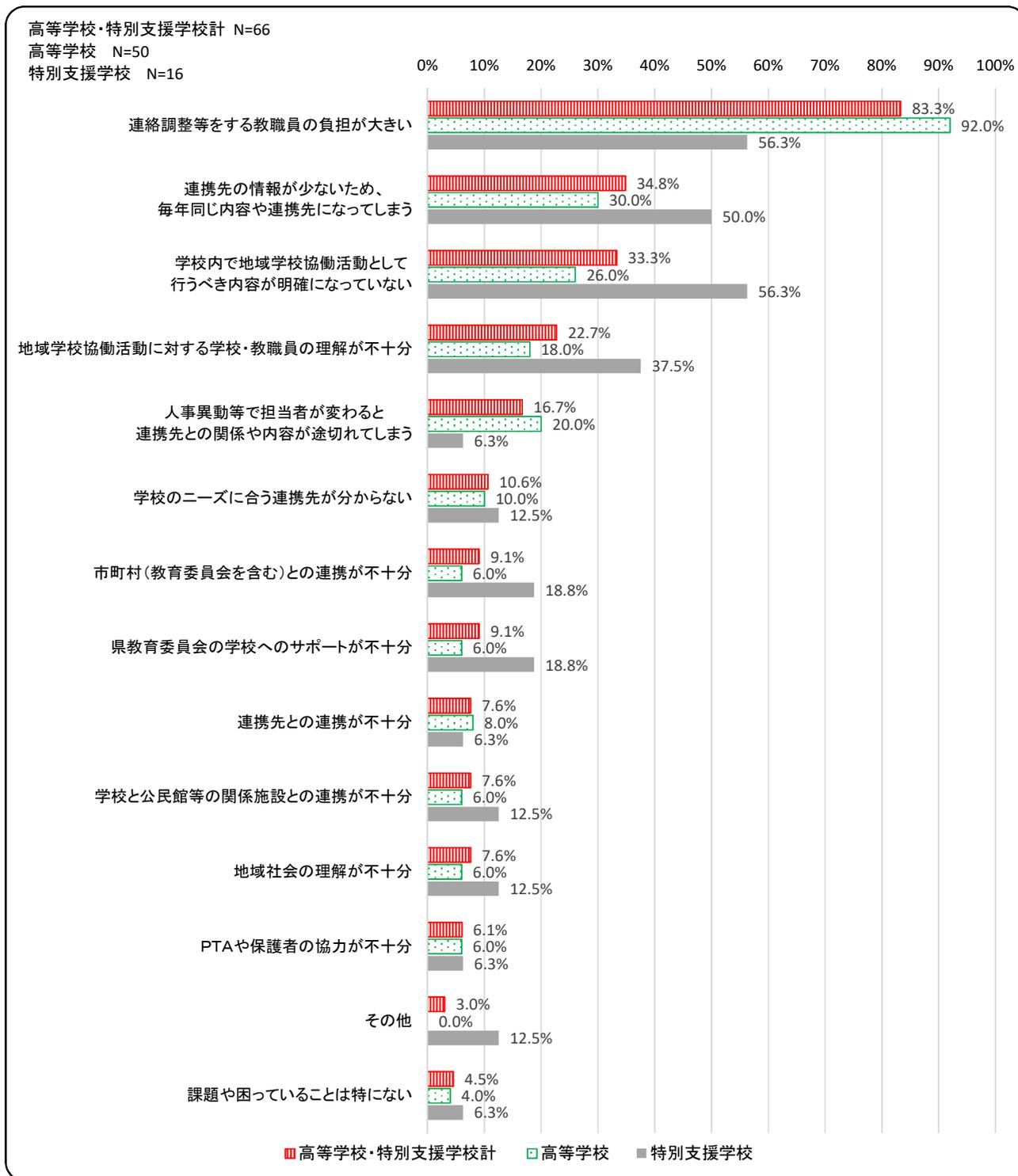
H	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	6校	12.0%	25校	50.0%	20校	40.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
	特支	16校	0校	0.0%	7校	43.8%	8校	50.0%	1校	6.3%	0校	0.0%
	全体	66校	6校	9.1%	32校	48.5%	28校	42.4%	1校	1.5%	0校	0.0%

I	校種	学校数	とてもそう思う		ややそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		全くそう思わない	
	高校	50校	6校	12.0%	24校	48.0%	18校	36.0%	2校	4.0%	0校	0.0%
	特支	16校	0校	0.0%	5校	31.3%	10校	62.5%	1校	6.3%	0校	0.0%
	全体	66校	6校	9.1%	29校	43.9%	28校	42.4%	3校	4.5%	0校	0.0%

6 地域学校協働活動を実施する上で、学校として課題と感じていることについてお答えください。
(該当校回答)

□ 地域学校協働活動実施上、学校として感じている課題

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

特別支援学校(計2件) :

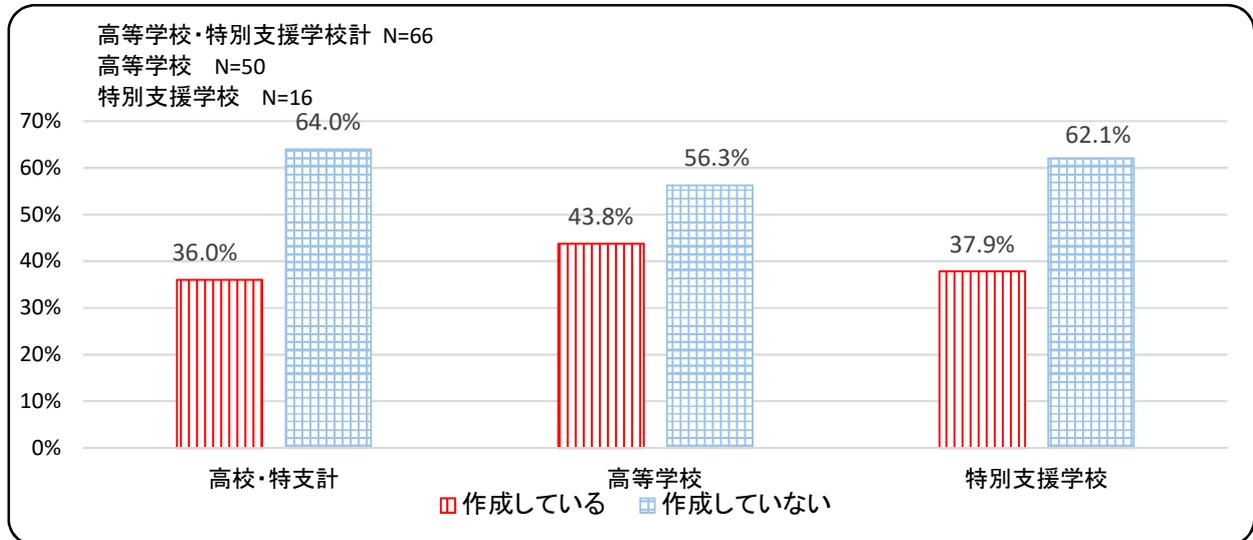
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、直接的、体験的な活動が難しい。(1件)
- ・学校運営協議会等の様々な機会を活用し、更に本校の教育活動を発信するための方策や地域住民等と協働するための方策を検討する必要がある。(1件)

		高校・特支計 (66校)		高等学校 (50校)		特別支援学校 (16校)	
		校数	割合	校数	割合	校数	割合
ア	地域学校協働活動に対する学校・教職員の理解が不十分	15校	22.7%	9校	18.0%	6校	37.5%
イ	連絡調整等をする教職員の負担が大きい	55校	83.3%	46校	92.0%	9校	56.3%
ウ	学校内で地域学校協働活動として行うべき内容が明確になっていない	22校	33.3%	13校	26.0%	9校	56.3%
エ	連携先との連携が不十分	5校	7.6%	4校	8.0%	1校	6.3%
オ	連携先の情報が少ないため、毎年同じ内容や連携先になってしまう	23校	34.8%	15校	30.0%	8校	50.0%
カ	人事異動等で担当者が変わると連携先との関係や内容が途切れてしまう	11校	16.7%	10校	20.0%	1校	6.3%
キ	学校のニーズに合う連携先が分からない	7校	10.6%	5校	10.0%	2校	12.5%
ク	市町村(教育委員会を含む)との連携が不十分	6校	9.1%	3校	6.0%	3校	18.8%
ケ	県教育委員会の学校へのサポートが不十分	6校	9.1%	3校	6.0%	3校	18.8%
コ	学校と公民館等の関係施設との連携が不十分	5校	7.6%	3校	6.0%	2校	12.5%
サ	PTAや保護者の協力が不十分	4校	6.1%	3校	6.0%	1校	6.3%
シ	地域社会の理解が不十分	5校	7.6%	3校	6.0%	2校	12.5%
ス	その他	2校	3.0%	0校	0.0%	2校	12.5%
セ	課題や困っていることは特にない	3校	4.5%	2校	4.0%	1校	6.3%

7 学校が独自に、地域の方や企業等の協力(職場体験等)を受けるためのリスト(人財バンク)を作成していますか。

(該当校回答)

□地域の方や企業の支援(職場体験等)を受けるためのリスト(人財バンク)を作成している割合



	学校数	作成している		作成していない	
高校	50校	18校	36.0%	32校	64.0%
特支	16校	7校	43.8%	9校	56.3%
全体	66校	25校	37.9%	41校	62.1%

8 現在検討している地域学校協働活動について、その内容を記載してください。

(該当校回答)

高等学校(該当校1校)

- ・ 地域の自然、産業、課題等を学ぶ活動

特別支援学校(該当校3校)

- ・ 出前公民館、生け花体験教室、焼き芋会障害者スポーツ体験、一次救命体験、校舎のライトアップ、校舎のデコレーション、キッザニア (※同回答2校)
- ・ 職場体験、出前授業

9 地域学校協働活動を行っていない(検討予定がない)理由を記載してください。

(該当校回答)

高等学校(該当校3校)

- ・ 本校は中高一貫校や地域拠点校など、教育行政に関わるあらゆる役割が課せられており、地域学校協働活動など新たな事業を協議する機会を設けていない。
- ・ 夜間定時制高校であり、時間的な制約や就業(アルバイト)しながらの生活を余儀なくされている生徒も存在するため、現状を踏まえれば、この活動を行うのは現実的に厳しいのではないかと考える。
- ・ 地域学校協働活動が生徒の成長にとって効果的であるとは考えてる。しかし、地域学校協働本部の設置など活動の準備の面で、教員の多大な負担増が予想され、実施には踏み込めない。

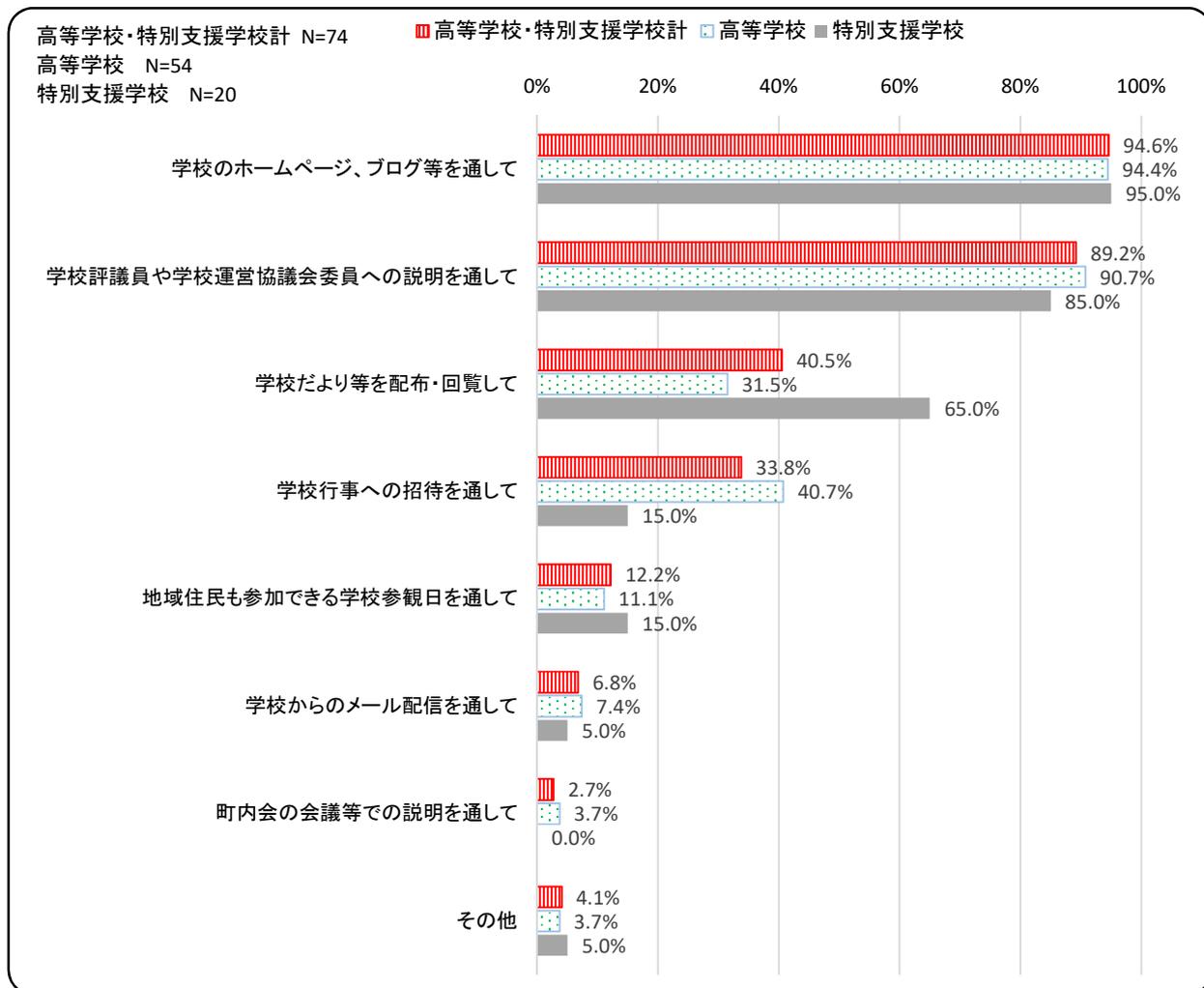
特別支援学校(該当校1校)

- ・ 学校運営協議会が設置され、今年度2年目である。学校運営協議会と地域学校協働活動を一体化して進める段階に至っていない。

10 地域住民(在籍する児童生徒の家庭以外)に対して、学校の教育活動全般の情報をどのように発信していますか。

(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

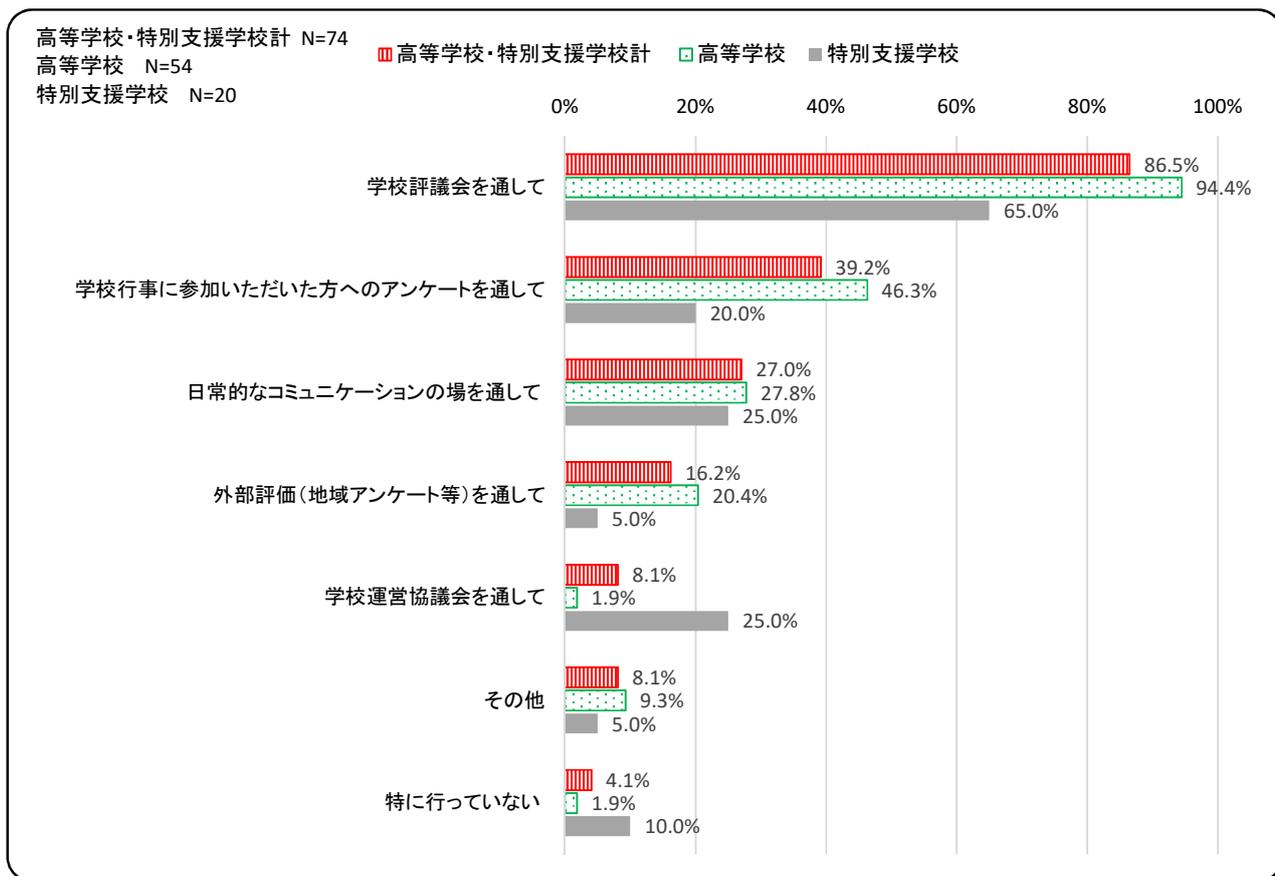
高等学校(計2件) :自治体の広報誌に毎月学校情報を掲載(2件)

特別支援学校(計1件) :地域で毎月発行する広報(公民館だより)に学校の情報を掲載(1件)

発信方法	高校・特支計(74校)		高等学校(54校)		特別支援学校(20校)	
	校数	割合	校数	割合	校数	割合
ア 学校だより等を配布・回覧して	30校	40.5%	17校	31.5%	13校	65.0%
イ 学校行事への招待を通して	25校	33.8%	22校	40.7%	3校	15.0%
ウ 地域住民も参加できる学校参観日を通して	9校	12.2%	6校	11.1%	3校	15.0%
エ 学校評議員や学校運営協議会委員への説明を通して	66校	89.2%	49校	90.7%	17校	85.0%
オ 町内会の会議等での説明を通して	2校	2.7%	2校	3.7%	0校	0.0%
カ 学校のホームページ、ブログ等を通して	70校	94.6%	51校	94.4%	19校	95.0%
キ 学校からのメール配信を通して	5校	6.8%	4校	7.4%	1校	5.0%
ク その他	3校	4.1%	2校	3.7%	1校	5.0%

11 地域住民(在籍する児童生徒の家庭以外)の要望や意見を、どのように学校の運営に取り入れていますか。
(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

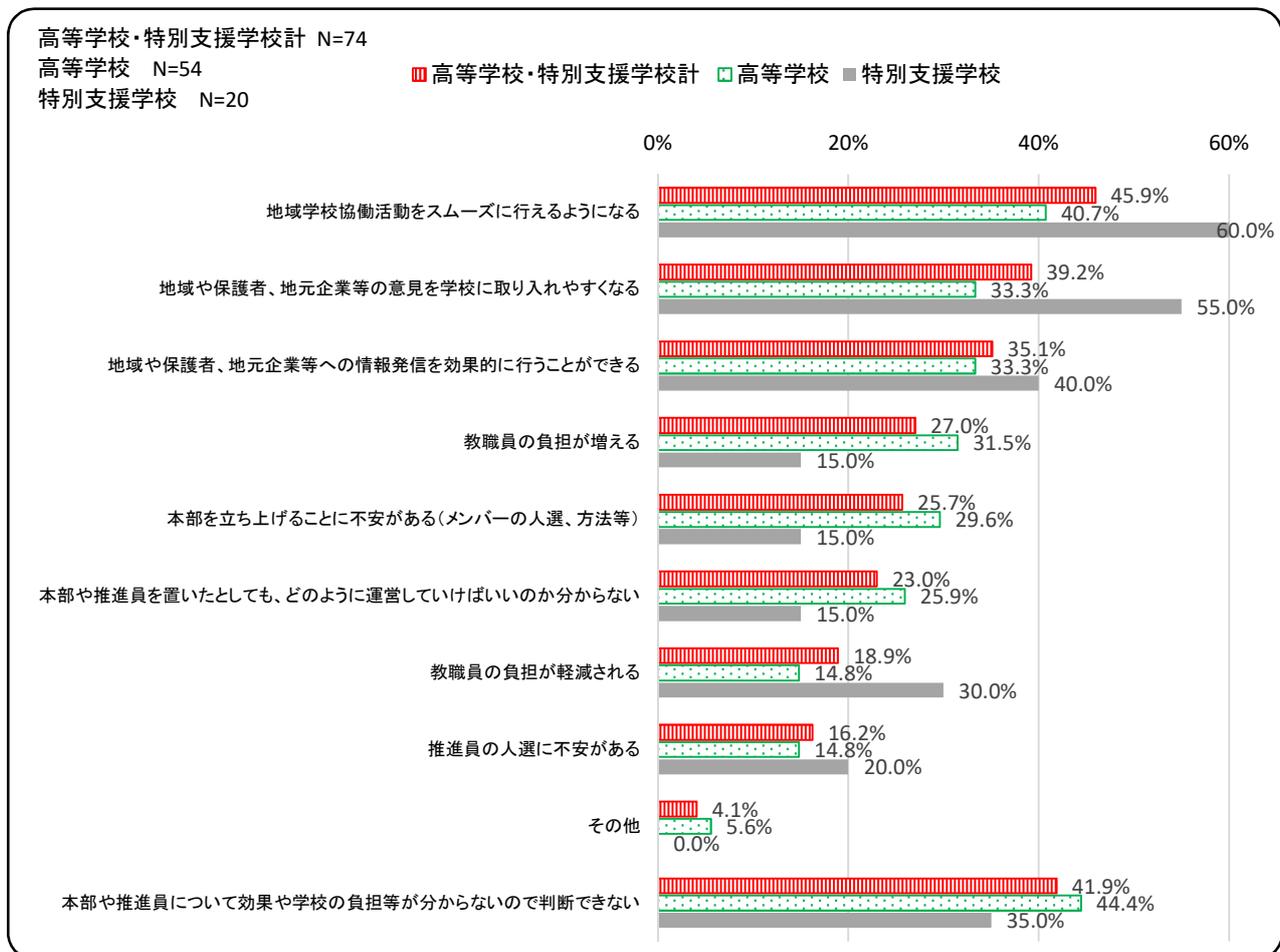
- 高等学校(計5件) : 地域住民からの情報提供(電話等)を通して(1件)
 町の広報誌やSNS等を通じて(1件)
 高校活性化協議会(1件)
 本校所在地の住民との会合(1件)
 お電話での御意見等に真摯に対応している(1件)
- 特別支援学校(計1件) : 地域交流コーディネーターを通して(1件)

		高校・特支計(74校)		高等学校(54校)		特別支援学校(20校)	
ア	外部評価(地域アンケート等)を通して	12校	16.2%	11校	20.4%	1校	5.0%
イ	学校運営協議会を通して	6校	8.1%	1校	1.9%	5校	25.0%
ウ	学校評議会を通して	64校	86.5%	51校	94.4%	13校	65.0%
エ	学校行事に参加いただいた方へのアンケートを通して	29校	39.2%	25校	46.3%	4校	20.0%
オ	日常的なコミュニケーションの場を通して	20校	27.0%	15校	27.8%	5校	25.0%
カ	その他	6校	8.1%	5校	9.3%	1校	5.0%
キ	特に行っていない	3校	4.1%	1校	1.9%	2校	10.0%

12 地域学校協働本部(以下、「本部」という。)や地域学校協働活動推進員(以下、「推進員」という。)を自校に置くことについて、どのように考えますか。

(全校回答)

※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

高等学校(計3件) : 今まで地域との連携が構築されてきており、新たに本部や推進員を自校に置く必要がない(1件)
 今年度で閉校となるので、議論をしていない。(2件)

	高校・特支計(74校)	高等学校(54校)	特別支援学校(20校)
ア 地域学校協働活動をスムーズに行えるようになる	34校 45.9%	22校 40.7%	12校 60.0%
イ 地域や保護者、地元企業等への情報発信を効果的に行うことができる	26校 35.1%	18校 33.3%	8校 40.0%
ウ 地域や保護者、地元企業等の意見を学校に取り入れやすくなる	29校 39.2%	18校 33.3%	11校 55.0%
エ 教職員の負担が軽減される	14校 18.9%	8校 14.8%	6校 30.0%
オ 教職員の負担が増える	20校 27.0%	17校 31.5%	3校 15.0%
カ 本部を立ち上げることに不安がある(メンバーの人選、方法等)	19校 25.7%	16校 29.6%	3校 15.0%
キ 推進員の人選に不安がある	12校 16.2%	8校 14.8%	4校 20.0%
ク 本部や推進員を置いたとしても、どのように運営していけばいいのか分からない	17校 23.0%	14校 25.9%	3校 15.0%
ケ その他	3校 4.1%	3校 5.6%	0校 0.0%
コ 本部や推進員について効果や学校の負担等が分からないので判断できない	31校 41.9%	24校 44.4%	7校 35.0%

13 学校と地域の連携に関して、御意見がありましたら御記入ください。

(全校回答・自由記述)

【高等学校】

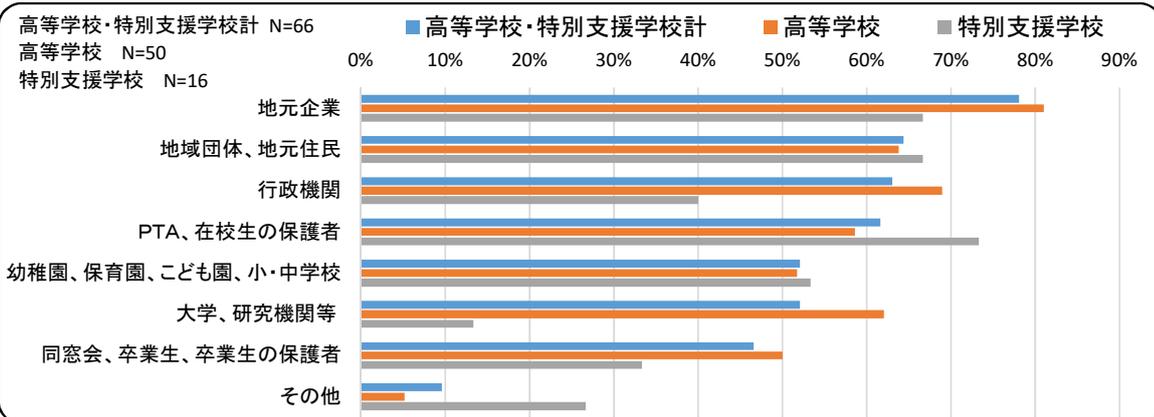
- ・本部や推進員を学校に置くことについて、教職員の負担軽減に成り得るとい根拠や他での実績が示されなければ、働き方改革の観点から自校内で検討することができない。
- ・本校においては、ボランティア活動やキャリア教育の部分での連携が主になっている現状です。総合的な探究の時間においても、「あおり創造学」推進の観点からも連携を活用する必要があるかと思ます。
- ・カリキュラムマネジメントの3つの側面の一つである、社会に開かれた教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を構築するために地域との連携、ひいてはコミュニティースクールの導入も考えられるが、そのためには地域全体で学校と関わることの重要性を理解した人材の育成を図る必要があると考える。現在、コミュニティースクールとして活動している各校の実践例について、可視化した情報提供をしていただきたい。
- ・小・中学校では、協働本部設置に教育委員会が主導的に加わり実施しているときいている。高校に関しても実績のある経験者が主導的に加わり行っていく必要があると考えている。設置・運営等まだ分からないことが多く、教育活動の深まりになっていないのが現状である。
- ・推進員については、専門学校は各学科に即した専門知識が必要で受けた仕事を首尾一貫で行えるかどうかで効果や学校の負担が変わると思ます。インターンシップやあおり創造学、課題研究、資格講習等において、毎年更新された連携していただける企業と連携できる内容リストがあるだけで教職員の負担が軽減されると思ます。
- ・地域学校協働活動推進員は配置されれば助かりそうである。ただし、地域の実情や教育についての知見があるコーディネーターは有益であるが、人材によっては学校が振り回され、却って負担となるのではないか。その点において、人選には慎重を期したい。
- ・一部の教員や生徒のみが関わっているケースが多いため学校全体で取り組んだ方が高い効果が得られる。
地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の配置が不可欠である。
- ・本校は、地域の農業高校として、行政、民間企業及び地域団体から連携の依頼があれば前向きに検討している。学校と地域が連携することで、生徒は社会と接する機会を持つことができる。学校生活に不安を感じている生徒が、学校外でやりがいを見つけられることで充実感を得られ、その事で将来を考えるきっかけにもなっている。様々な場面で大人と接することで、学校では学べないライフキャリアを学ぶことができる。本校では、外部講師による授業や学校外での活動を積極的に行い、社会に開かれた教育課程を実践している。
- ・「3 地域学校協働活動の内容」で回答した行事等、改善しながら行っているものが多数あり、成果もあることから、これ以上は増やさなくてもいいと考える。
- ・本校は学校運営協議会を組織しているが、さらに地域学校協働推進員を置くことで効果を上げることができるかが不明である。また、コロナ禍の影響でせっかく委員を置いても、有効に活用できるか不安がある。
- ・学校と地域が連携し、生徒が学校外部の方と接点を持つ事は教育活動に必要不可欠であると考えます。地域のために尽力している企業や団体の方と接する事で、地域に対する愛着や、地域住民に対する畏敬の念から、生徒自身も地域で貢献できる仕事に就きたいという意欲に繋がります。地域の方々は全般的に協力的であり、連携する事に大きな問題はありますが、地域学校協働活動推進員が配置されれば、より円滑かつ幅広く協働活動が成り立ち、担当職員が不慣れな場合でも相談ができ、負担も軽減されると思ます。
- ・地域に対する学習活動を推進するために、県にコーディネーターを置くことを検討して欲しい。高等学校と地域をつなぐ仕組みの創設を望む。
- ・生徒が活躍できる場が大幅に増え、学校の特色ある取組として学校の魅力化にもつながることなどが大いに期待できる。

- ・ 現在、教頭が窓口となり、具体的な内容については分掌内や教科内の教員がやり取りをし、実施要項の作成・派遣依頼・礼状の作成を行っている。昨年度に比較してスムーズに行われるようになってきている。一方で、校内の連携がうまくいかないと、外部の方が知らないうちに校内で活動しているという状態になりかねない。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、従来であれば地域の方々にご案内をしていた文化祭や授業公開等はお知らせすることができなかった。今後、コロナが収束に向かうことにより、もう少し活発に行うことが可能になると考えます。
- ・ 生徒の資質・能力は家庭、地域及び社会とのつながりの中でより一層育まれるものであると考えます。そのため、家庭や地域からの意向を反映させ、連携して協働活動に取り組んでいく必要があると考えます。

【特別支援学校】

- ・ 少子化・高齢化の地域で一緒に活動する時間や内容を検討していく必要がある。また、必要に応じて校外に出かける際の交通手段も気軽にできない時もある。
- ・ 自己有用感やコミュニケーション力の向上につながり大変よいが、教員が学校のニーズに合った連携先を探したり、事前調整をすることに対する負担が増えることが懸念される。
- ・ 保護者にとって学校や地域に対する理解度の向上や地域の中で子供たちが育てられているという安心感。保護者同士や地域の人々との人間関係の構築に期待感。

□地域学校協働活動の連携先
※複数回答のため、重複あり

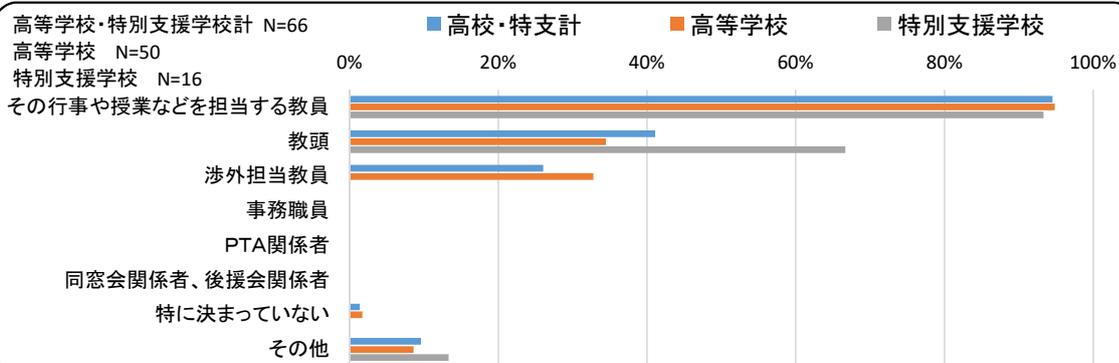


「その他」の記載内容

高等学校(計3件) : 近隣の特別支援学校(3件)
特別支援学校(計4件) : 青森県立郷土館・三内丸山遺跡センター(1件)、近隣の高等学校(1件)、

	高校・特支計(73校)		高等学校(58校)		特別支援学校(15校)	
幼稚園、保育園、こども園、小・中学校	38校	52.1%	30校	51.7%	8校	53.3%
PTA、在校生の保護者	45校	61.6%	34校	58.6%	11校	73.3%
同窓会、卒業生、卒業生の保護者	34校	46.6%	29校	50.0%	5校	33.3%
地元企業	57校	78.1%	47校	81.0%	10校	66.7%
行政機関	46校	63.0%	40校	69.0%	6校	40.0%
地域団体、地元住民	47校	64.4%	37校	63.8%	10校	66.7%
大学、研究機関等	38校	52.1%	36校	62.1%	2校	13.3%
その他	7校	9.6%	3校	5.2%	4校	26.7%

□連携先と学校のコーディネート(つなぎ役)担当者
※複数回答のため、重複あり



「その他」の記載内容

高等学校(計5件) : 進路指導部教員(1件)、観光科教員(1件)、総合学科部教員(1件)
高大連携先の大学教員(1件)、農場長(1件)

	高校・特支計(73校)		高等学校(58校)		特別支援学校(15校)	
教頭	30校	41.1%	20校	34.5%	10校	66.7%
渉外担当教員	19校	26.0%	19校	32.8%	0校	0.0%
その行事や授業などを担当する教員	69校	94.5%	55校	94.8%	14校	93.3%
事務職員	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
PTA関係者	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
同窓会関係者、後援会関係者	0校	0.0%	0校	0.0%	0校	0.0%
特に決まっていない	1校	1.4%	1校	1.7%	0校	0.0%
その他	7校	9.6%	5校	8.6%	2校	13.3%